

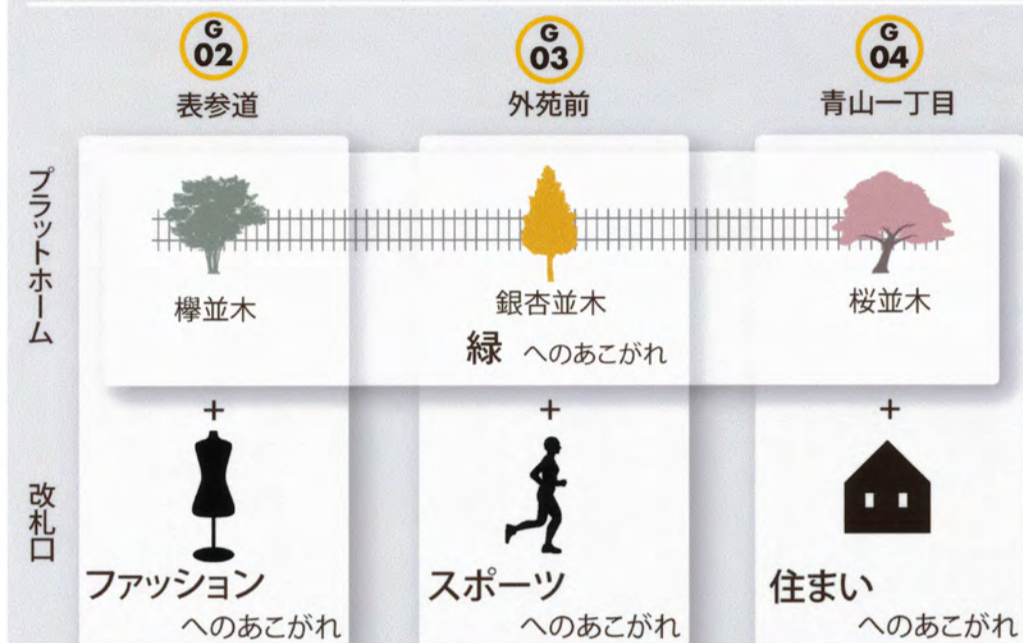
ACO-GARE 人々の“あこがれ”と街並みが調和する駅デザイン

本コンセプトの“ACO-GARE”は、フランス語のAccord（調和）とGare（駅）を組み合わせ、人々が街に抱く“あこがれ”を表現した造語です。

あのショップに行きたい。あの試合を観たい。あそこに住んでみたい…。

表参道・外苑前・青山一丁目からなる青山エリアは、さまざまなトレンド発信地として、全国から常に注目を集めています。そして豊富な緑地空間を有し、観光地として、また住みたい街として、根強い人気を誇ります。青山は、都会への“あこがれ”に満ち溢れたエリアなのです。そんな青山の街に無数に存在する“あこがれ”の要素を抽出し、デザインに反映します。人々のあこがれを乗せて走る銀座線が止まる駅は、そんな人々をトレンドエリアへリードする“街とあこがれが調和する駅=ACO-GARE”として機能していきます。

デザインコンセプト



トレンドエリアのあこがれ要素を抽出しデザインに展開していきます。

◆プラットホーム◆
銀座線トレンドエリアを広く捉えると、“表参道の樺並木”、“明治神宮外苑の銀杏並木”、“青山霊園園路の桜並木”といった緑地空間が多く、自然に恵まれていることがわかります。そんな風景をモチーフにし、プラットホームのデザイン構成を統一することで、3駅にゆるやかな調和を生み出します。

◆改札口周り◆
各エリアのあこがれ要素として“表参道=ファッション”、“外苑前=スポーツ”、“青山一丁目=高級住宅街(住い)”をキーワードとし、地上に広がる街への期待感を高めます。

時間軸の表現 めまぐるしく変化するトレンドの断片を、素材を介して表現します。

伝統=木材、石材、布 現在=鏡面、メタル、ガラス 未来=光の道

積み重ねられてきた伝統・歴史を温かみのある木材や布、重厚感のある石材で表現します。反射素材は、日々のトレンドを映し、街や自分の『今』を感じさせる装置となります。これからのトレンドで変わっていく街や自分の『未来』に対する期待感を表します。

ユーザー像

結婚記念日を迎えた夫婦。会社員の夫が妻と共に、普段よく利用する表参道-外苑前-青山一丁目で過ごす、15年刻みの記念日の様子。



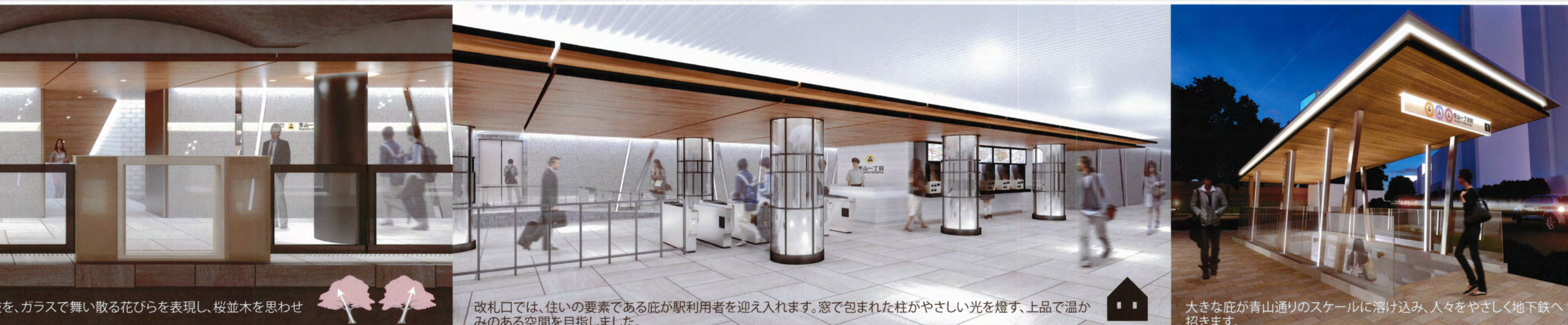
【改札口】改札口周りは、柱と光の道を糸、床パターンを布に見立て、ファッションが生まれる様を表現。人々がこれから着る衣服や新しいトレンドを象徴します。壁面には最新技術のミラー型タッチパネルを採用。スマートな印象を与えと共に、人々の最新ファッションを映し出し『今』を感じる装置として機能します。

【プラットホーム】樺並木がある風景をモチーフにしました。また、天井の 패턴は木漏れ日とその隙間から垣間見える空の抜けを表現しています。対面壁と階段吹抜けには、表参道の土留めとして築かれた石垣を用い、表参道の風景を取り込みました。

◆Age30◆ 今日初めての結婚記念日。妻の祐子に素敵な1日を贈りたくて、表参道に遊びに来た。「すっきりしてブランドのショップみたい…」駅を見回して祐子がつぶやいた。新しくなった表参道駅に来たのは初めてだった。道行く人が引き立つよう明るく透明感を重視したデザインになっているから、洗練されたシンプルさがあるから確かにショップみたいなんだよな。プラットホームデザインが参道の樺並木を表現していることや、道行く人々を映す鏡がトレンドを映す意味も持っていることを教えると、初めて憧れの表参道を歩いた時みたいな気分になれる、と笑った。祐子は特にデジタルサイネージが気に入ったみたいだ。一見すると鏡の柱なのに、タッチすると周辺の店や人気スポット、歴史といった様々な情報を見せてくれるのが面白いのだと言う。折角だからランチの場所はこれで探してみようか。



◆Age45◆ ランチの後、テニスをするため外苑前へ。駅に降り立ってすぐ、妻が天井を仰ぎ見た。「相変わらず気持ちいい駅ね」柱が映り込む天井によって生まれる空間は、地下なのを忘れるくらいいつも開放感がある。天井に施された躍動的な照明ラインが、スポーツをする時のアクティブな気持ちを盛り上げてくれるところも僕のお気に入りだ。子供が生まれて落ち着くまで結婚記念日を2人で過ごす機会がなかったから、今日はお互いワクワクしている気がする。そもそもデートだっていつ振りだろう。「テニスに行く前に銀杏並木を観に行かない?」少し照れくさそうに、祐子が提案してきた。銀杏並木をモチーフにした整然と並ぶ柱を見てると、やっぱり本物も見たくなるよな。ちょうど紅葉のシーズンだし、初めて二人で外苑前を歩いた時みたいに、写真でも撮ってもらおう。



◆Age60◆ テニスなんて久しぶりだったから、張り切りすぎてしまったか。腰をさする僕を見て笑う妻いつもの隠れ家レストランに行くために、青山一丁目へ。「ここに来るの、1年ぶりね。気持ちが落ちつく駅なのよね」妻が気に入っている桜吹雪を表現したガラススタイルや、伝統を感じさせる木材にミラーを組み合わせた、住宅を思わせる落ち着いたデザインは、いつまでも変わらない良さがある。ミラーに寄り添って伸びる光の道が未来を表現しているんだと教えた時に、私達もこんな風に続いていこうと妻が言ったのは何十年前だっただろう。その言葉の通り、こうして毎年ここへ一緒に来られるのは、やはりとても嬉しい。「結婚してくれてありがとうな。これからもよろしく」駅で言うなんて少し気が早かったか。でも妻が照れくさそうに笑っているから、まあよしとしようか。

改札口では、住いの要素である庇が駅利用者を迎え入れます。窓で包まれた柱がやさしい光を燈す、上品で温かみのある空間を目指しました。

大きな庇が青山通りのスケールに溶け込み、人々をやさしく地下鉄へ招きます。

METRO-0108